

■ 児童数の推移 (R01-R13)		R07.09末時点													
		()は特別支援学級で外数													
校名	年	R07(2025)		R08(2026)		R09(2027)		R10(2028)		R11(2029)		R12(2030)		R13(2031)	
		児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級
平沢小学校	1	45	2	45	2	35	1	40	2	36	2	40	2	30	1
	2	32	1	45	2	45	2	46	2	40	2	36	2	40	2
	3	(3) 46	(2) 2	32	1	45	2	50	2	46	2	40	2	36	2
	4	(1) 50	(1) 2	(3) 46	(2) 2	32	1	(1) 55	(1) 2	50	2	46	2	40	2
	5	45	2	(1) 50	(1) 2	(3) 46	(2) 2	44	2	55	2	50	2	46	2
	6	(1) 40	(1) 2	45	2	(1) 50	(1) 2	(3) 66	(2) 2	44	2	55	2	50	2
	計	(5) 258	(4) 11	(4) 263	(3) 11	(4) 253	(3) 10	(4) 301	(3) 12	271	12	267	12	242	11
院内小学校	1	(1) 10	(1) 1	5	1	11	1								
	2	12	1	(1) 10	(1) 1	5	0								
	3	20	1	12	1	(1) 10	(1) 1								
	4	16	1	20	1	12	1								
	5	14	1	16	1	20	1								
	6	20	1	14	1	16	1								
	計	(1) 92	(1) 6	(1) 77	(1) 6	(1) 74	(1) 5								
全	1	19	1	13	1	15	1	15	1	13	1	8	1	5	1
	2	(2) 16	(2) 1	19	1	13	1	15	1	15	1	13	1	8	1

《注意》平沢小学校の特別支援学級数の現状は2学級。便宜上学年ごとの設置で表示。

▶ 院内小学校

今後想定される事項

○教職員数の減員により学校経営への懸念

- ・令和8年度的全児童数は77人で90人を下回るため、学級数+1人配置がなくなり、令和7年度よりマイナス1人となる。
- ・令和9年度は、2学年+3学年で15人となり複式学級となることから、更にマイナス1人となる。

複式学級

- ・小学校の場合、2つ以上の学年を合わせて16人以下(1年生を含む場合は8人以下)となる場合に編成した学級をいう。異なる学年の児童が1つの教室で1人の先生から同時に授業を受けるため、一方の学年が指導を受けている間、もう一方の学年は自習課題等をする授業スタイルが一般的です。

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> ☆一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな指導が行いやすい。 ☆上級生の学習を知ることができる。 ☆学校行事では、一人ひとりの個別の活動機会が多い。 ☆相互の人間関係が深まりやすい。 ☆異学年間の縦の交流が生まれやすい。 ☆保護者間の連携が図られやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆異学年の児童が同じ教室にいながら、それぞれの学年に合わせた指導を同時に行うことになるため、教師が子どもに対応する時間が限られる。 ◆少人数なため、多様な意見が出にくい。 ◆運動会や発表会などの集団的な活動や学校行事で、種目等の制約が生じる。 ◆人間関係や相互の評価等が固定される。 ◆切磋琢磨する機会が少ない。 ◆PTA活動における保護者一人当たりの負担が大きくなりやすい。